

内視鏡システムが新しくなりました!

臨床工学室 臨床工学技士 中條馨代

皆さん、内視鏡検査は受けたことはありますか？

太さ1cm程度の細長い管の先にカメラがついており、胃や食道、十二指腸、大腸等の消化管疾患の診断・治療を行います。当院では9月13日から、最新の機能を備えた内視鏡システムが導入されました。今回は導入された内視鏡システムの特徴についてご紹介します。

■ 特殊光観察が可能

内視鏡検査では、通常白色光を用いて検査を行います。しかし、白色光だけでは良性か悪性かを判断できないこともあります。疑わしい病変がある場合には、特殊な光に切り替えて観察を行います。

BLI(Blue Light Imaging)観察

青紫色光と白色光の照射を行い、そこで得られた画像の信号処理を行うことで血管や粘膜の表面構造の観察に適した画像を映し出します。これらの画像から、初期の胃がんや大腸がんの発見をサポートすることができます。

LCI(Linked Color Imaging)観察

白色光の中に青紫色光を混合した光を照射し、得られた画像の粘膜表面の赤みをより強調して映し出します。内視鏡検査では、正常な粘膜と炎症がある粘膜を区別する必要がありますが、これらの色調の違いが分かりづらい粘膜もあります。LCIを使用することで、その僅かな色調の差を強調することができます。



白色光成分



BLI BLI (Blue Light Imaging) 観察

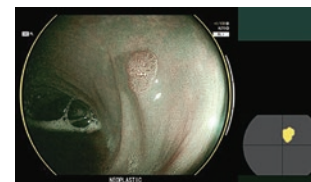


LCI LCI (Linked Color Imaging) 観察

■ CAD EYE(内視鏡診断支援機能)も搭載!

初期の大腸がんは、内視鏡手術や外科手術で切除できる可能性が高く、早期発見することが重要です。CAD EYEは富士フィルムのAI技術を用いた大腸内視鏡診断支援機能です。

LCIと併用すると、大腸ポリープがある領域を判断し、画面上に検出ボックスとして表示されます。また、BLIと併用することで、ポリープが良性か悪性かの可能性を推定しリアルタイムで推定結果を表示します。



このような特殊光検査や診断支援機能を使用することで、より確実性の高い内視鏡検査を行うことが可能となり、医師の診断のサポートに一役買っています。これらの最新技術を導入し、病状の早期発見、確実な診断につなげるとともに、これからも地域医療の貢献のため設備の拡充や人材育成に努力して参ります。



物忘れでお困りのことはございませんか？

認知症看護認定看護師 高橋道彦

年齢を重ねると、脳の老化によって誰でも物忘れをしやすくなります。加齢による物忘れは病気ではありません。加齢による物忘れと認知症による物忘れの違いについては、下記のとおりです。

加齢による物忘れ	認知症による物忘れ
物忘れを自覚している	物忘れの自覚がない
体験したことの一部を忘れる	体験したこと自体を忘れる
ヒントがあれば思い出す	ヒントがあっても思い出せない
日常生活に支障はない	日常生活に支障がある
判断力は低下しない	判断力が低下する

自宅でできる認知症予防の工夫として、頭と体を同時に使う行動が有効です。ポイントは、自分にとって毎日楽しく続けられる内容を選ぶことです。苦手なことや嫌々行うことは逆効果です。

ご自身やご家族の認知症について困ったときは、一人で抱え込まずに、地域包括支援センターや市町村の物忘れ相談などに相談することも必要です。地域により管轄が異なるため、市町村の高齢者福祉課等にお問い合わせください。

また、認知症看護認定看護師は、認知症の方の症状悪化を予防し、安全な療養生活を送る支援と家族のサポートをしております。当院では、第2・4週水曜日の午後に物忘れ外来を行っております。診断や治療、認定看護師への相談等をご希望の場合は、予約が可能です。



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
聖隷佐倉市民病院

〒285-8765 佐倉市江原台2-36-2

☎043-486-1155(予約専用)(平日8:30~17:00)

※物忘れ外来は完全予約制です。紹介状がなくても予約が可能です。

病院
ホームページ



新型コロナワクチンを接種しても感染は防げない？







感染管理認定看護師 安間有希

現在、新型コロナワクチン2回目の接種後2週間が経過してから検査で陽性が判明する「ブレイクスルー感染」が話題になっています。ワクチン接種が日本より進む米国内の状況はどうでしょうか。米疾病対策センター（CDC）のウェブサイトによると8月9日現在、ブレイクスルー感染による入院または死亡例は8,054人報告されています（他疾患による事例を含む）。2回の接種を終えた1億6,600万人を基にすると、10万人当たり5人となります。

CDCは「ブレイクスルー感染はごく一部。ワクチンによって入院や死亡する可能性を低くできる」と強調しています。ただし、接種完了者へのマスク着用は原則不要としていましたが、変異株の急拡大を受けて修正しました。他の人にうつす恐れがあるとして、流行地域の屋内ではマスクの着用を呼び掛けています。

日本も多くの方が新型コロナワクチン2回の接種を終了していますが、今まで通り、マスク着用は徹底しましょう。現在、様々なマスクがありますが、皆さんはどのマスクを使用していますか？

マスクは、吸い込み・吐き出し飛沫量の少ない不織布マスクを推奨します。正しくマスクを着用し、今後も感染に気をつけましょう。

	マスクの感染予防効果				
	大				小
対策方法	不織布マスク 	布マスク 	ウレタンマスク 	フェイスシールド 	マスクなし
吸い込み飛沫量 	30%	55~65%	60~70%	小さな飛沫には効果なし エアロゾルは防げない	100%
吐き出し飛沫量 	20%	18~34%	50%	80%	100%

※スーパーコンピューター「富岳」によるシミュレーション。豊橋技術科学大学による実験値を元に作成